

(社) 日本地すべり学会関東支部

2010年 ニュースレター No.1

■ (社) 日本地すべり学会関東支部総会・シンポジウム・意見交換会の開催

平成 22 年 6 月 18 日、東京大学工学部武田先端知ホールにおいて、関東支部総会とシンポジウムが開催されました。総会は、(社) 日本地すべり学会関東支部平成 22 年度役員名簿、平成 22 年事業計画(案)、平成 22 年事業予算(案)の各議案が満場一致で承認され、総会は無事終了しました。また、関東支部の新支部長として(独) 森林総合研究所の落合博貴様が就任されました。

本シンポジウムは、「新技術を用いた空(宇宙)からの地すべり地形把握と解析」を標題に開催しました。また、地盤工学会関東支から御後援もいただき、多くの来場者を迎えることができました。ここに本報告をするともに関係各位、来場者に御礼を申し上げます。本シンポジウムは、近年の大災害時等に活躍している合成開口レーダやレーザ計測が、どのような機材や手法で行われているか、いかに活用されているのか等を技術の最前線にいる方々に語っていただきました。演題と発表者は以下のとおりです。

- ① 「SAR 干渉画像と航空レーザ測量データを利用した地表変動の検出」
: 佐藤浩(国土地理院)
- ② 「合成開口レーダによる災害監視の事例」
: 下村博之(株式会社パスコ)
- ③ 「防災に関わるレーザ計測技術と DEM の活用」
: 小野田敏(アジア航測株式会社)
- ④ 「2 時期のレーザ地形画像マッチングによる地すべり移動量の計測」
: 向山栄(国際航業株式会社)

佐藤氏からは、基本的な SAR 干渉画像と航空レーザ測量の基調講演がありました。地すべりにおいても、SAR による多時期の画像からその移動範囲、移動量の把握が可能であることを事例から説明があり、既に実用化段階にあることを示されました。下村氏からは、主に合成開口レーダの活用事例の御紹介があり、中国等の内陸部での大災害時等は情報伝達手段も限られ、被災範囲が広範囲に及ぶことから、昼夜、天候を問わず活躍できる衛星からの合成開口レーダによる活躍が期待されているとのことです。小野田氏からは、中越、能登等の活用事例から、レーザ計測の精度やフィルタリング、データ作成のプロセス等の重要性と利活用における留意点について説明されました。向山氏からは、レーザ計測データの活用例として、岩手・宮城内陸地震他での 2 時期のデータから差分による移動量を把握し、活断層による地殻変動の動きなのかマスマーブメントの判定等にも活用できることを示されました。



写真1. 鶴飼日本地すべり学会会長からの御挨拶



写真2. 新たに関東支部支部長に就任された落合支部長からの御挨拶



写真3. 佐藤氏の御講演

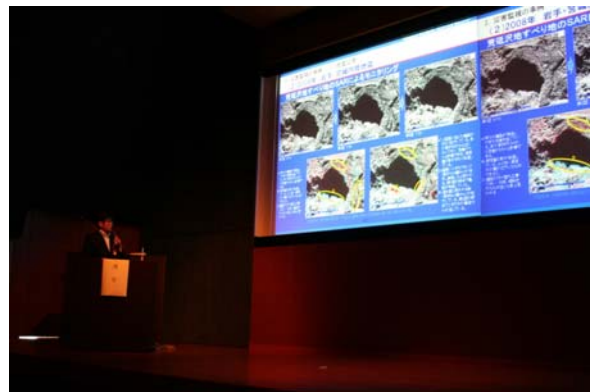


写真4. 下村氏の御講演

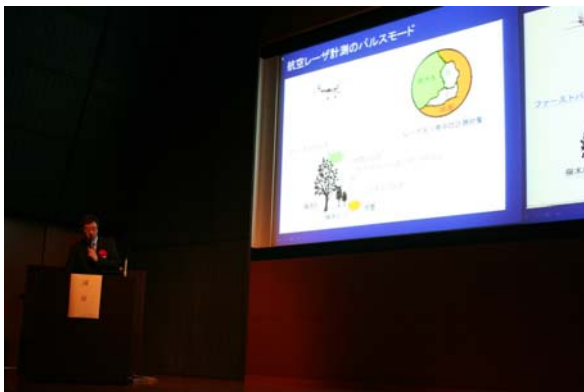


写真5. 小野田氏の御講演



写真6. 向山氏の御講演